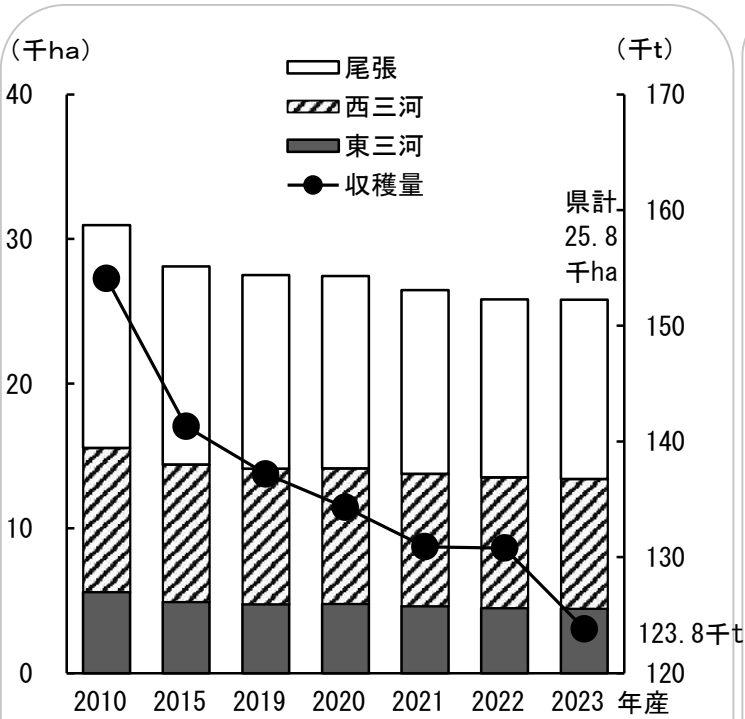


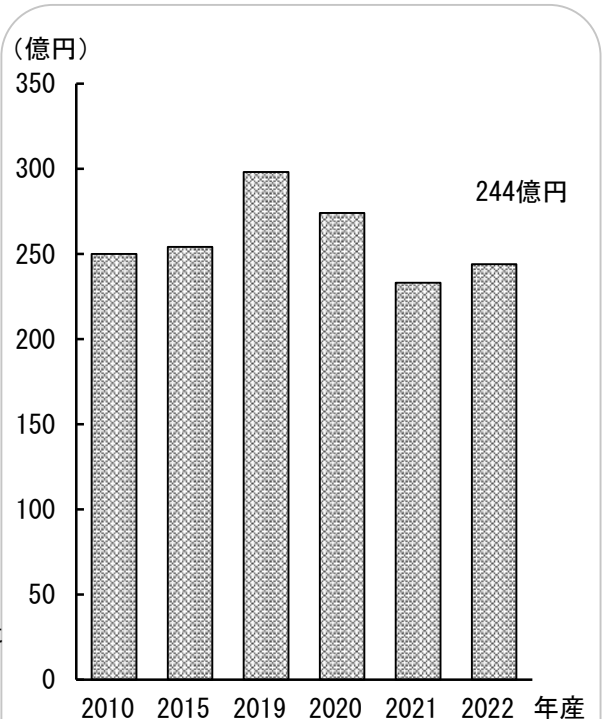
稲(米)・麦・大豆

《稲作付面積と収穫量の推移》



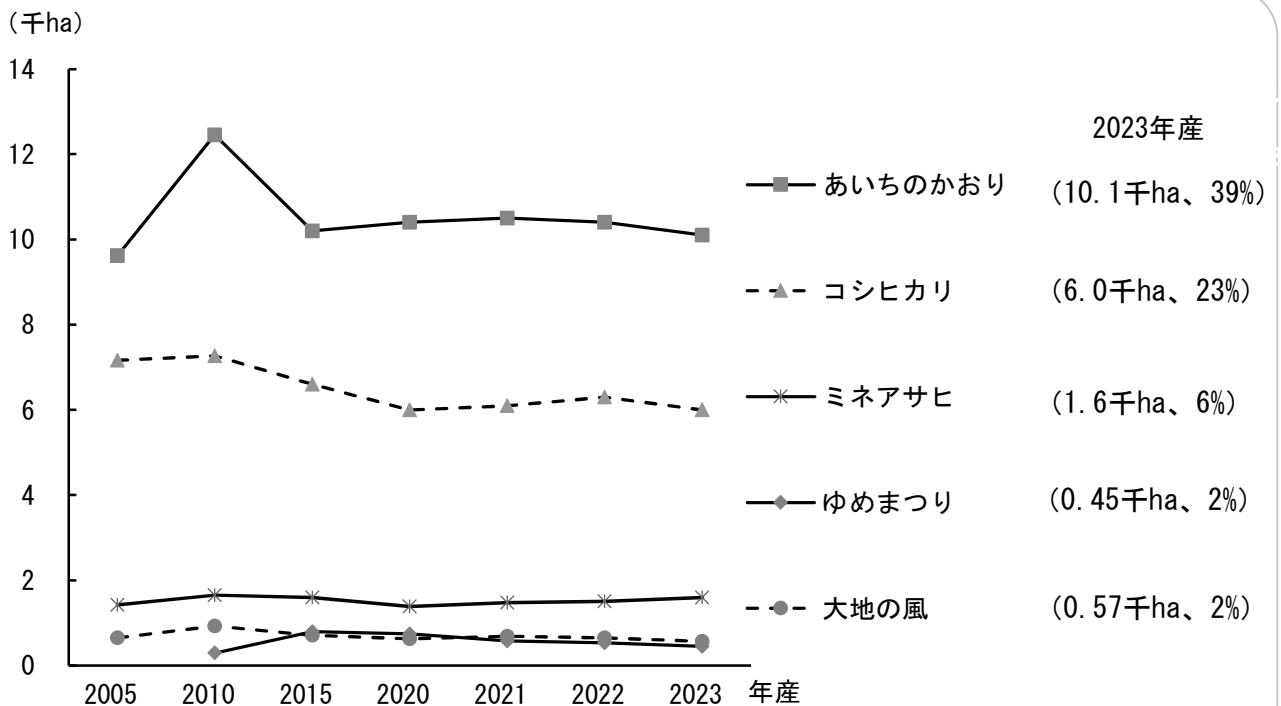
(出典：作物統計)
 稲の作付面積、収穫量とも減少傾向である。
 10aあたり収量は496kgで、作況指数は98であった。

《米産出額の推移》



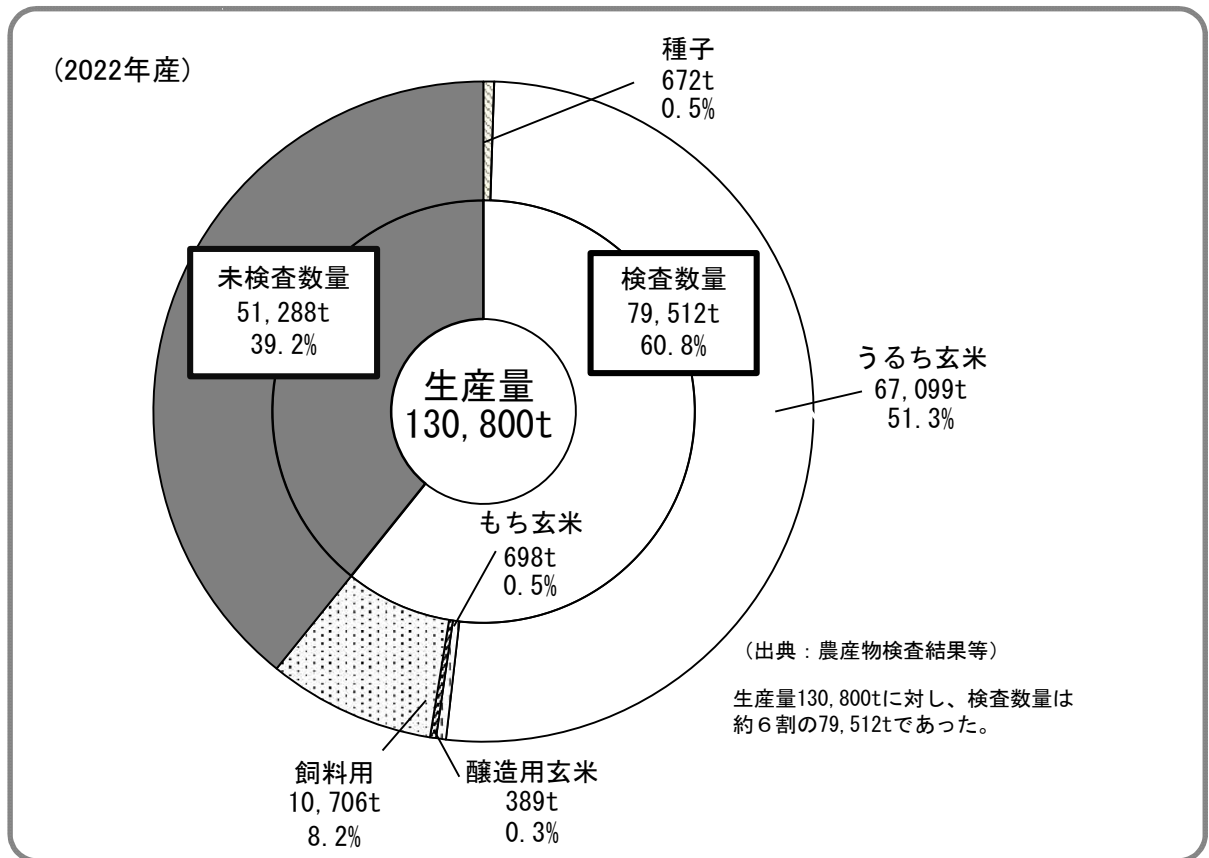
(出典：生産農業所得統計)

《稲主要品種の作付面積の推移》

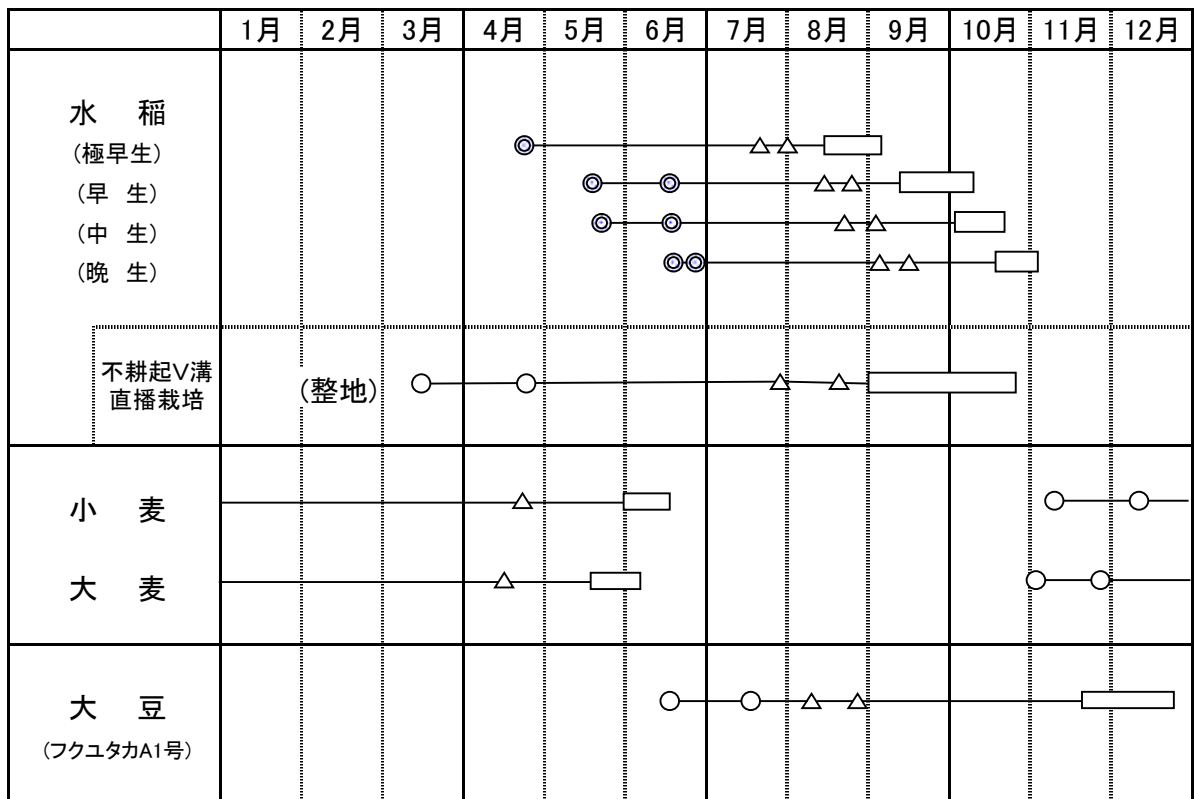


(出典：園芸農産課調べ等)
 県内で500ha以上の作付がある品種の面積(推定値)を示した。
 近年は主要品種の作付面積・割合に大きな変化は見られない。

《愛知県産米の農産物検査数量》

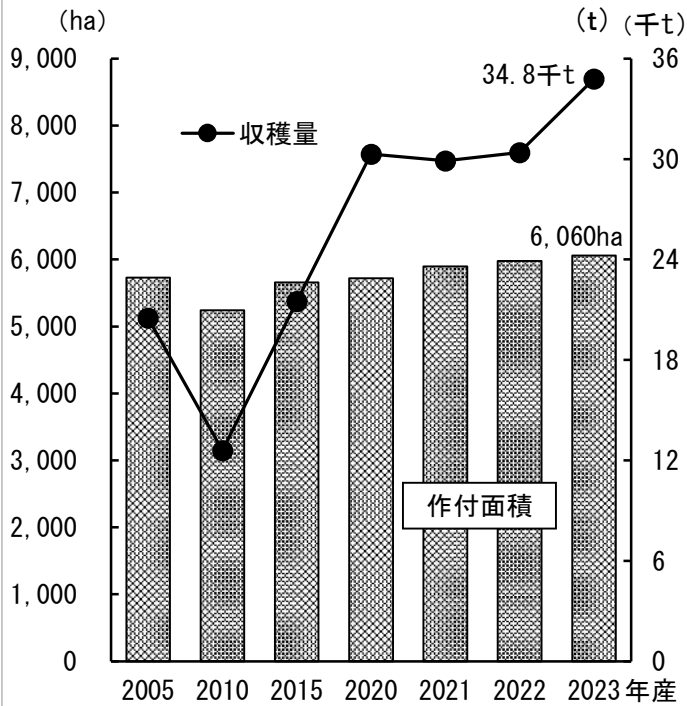


《稲・麦・大豆の作付体系》



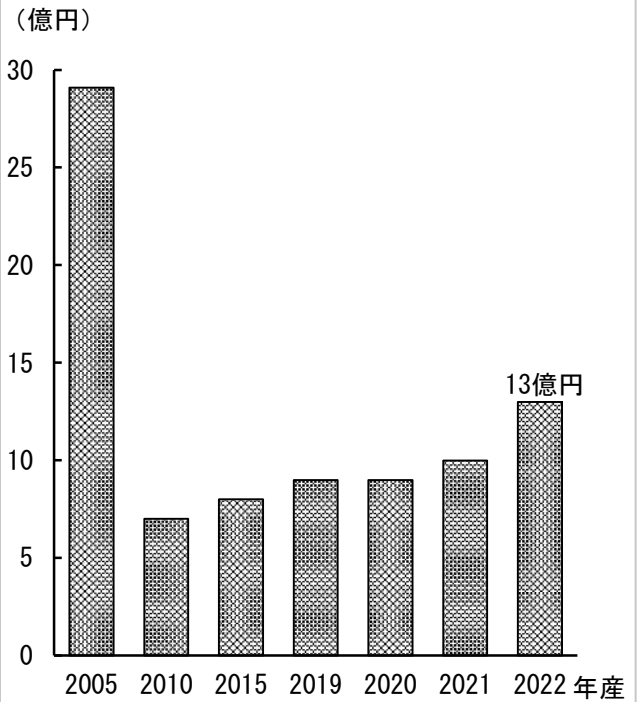
凡例： ○ ◎ △ △ □
播種 移植 出穂/開花 収穫

《麦類作付面積と収穫量の推移》



(出典：作物統計)
 近年の作付面積は6,000ha弱で増加傾向。
 このうち、小麦が98%を占める。
 収穫量は、小麦品種「きぬあかり」が導入された2012年産以降増加し、小麦の10aあたり収量は2018年産から3年連続全国1位となった。
 2021年産は509kgで全国2位、2022年産は511kg、2023年産は575kgで2年連続全国1位。

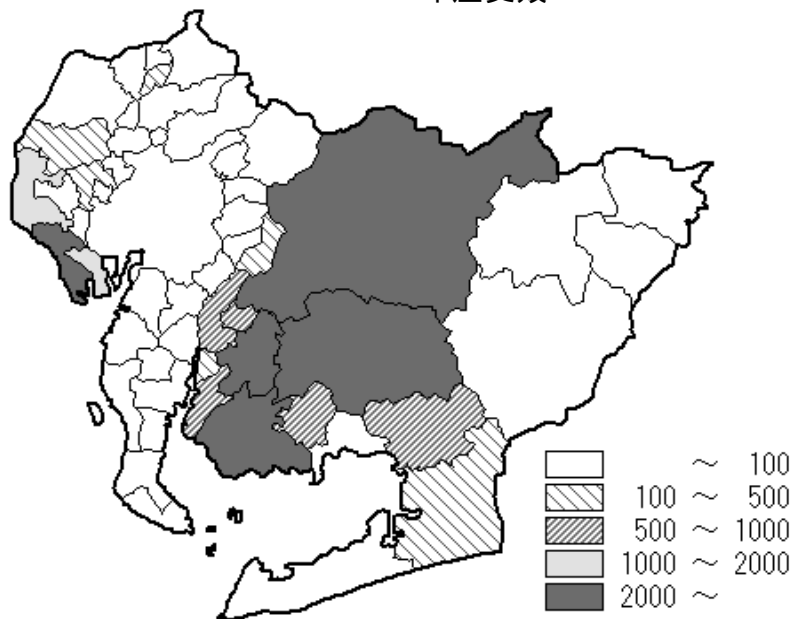
《麦類産出額の推移》



(出典：生産農業所得統計)
 2007年産以降、経営所得安定対策等の助成金額が産出額に算入されないことになった。
 国内産麦の価格は外国産麦の価格の影響を受けるため、変動がある。

《麦類の市町村別収穫量》

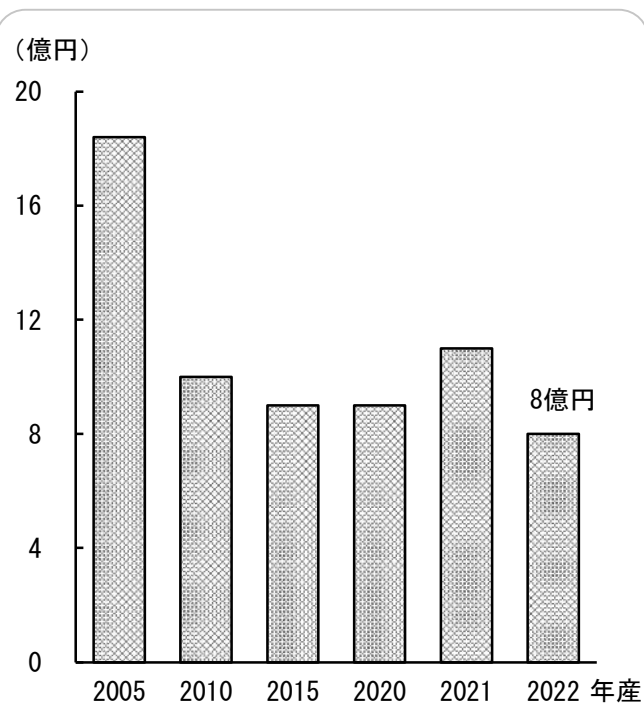
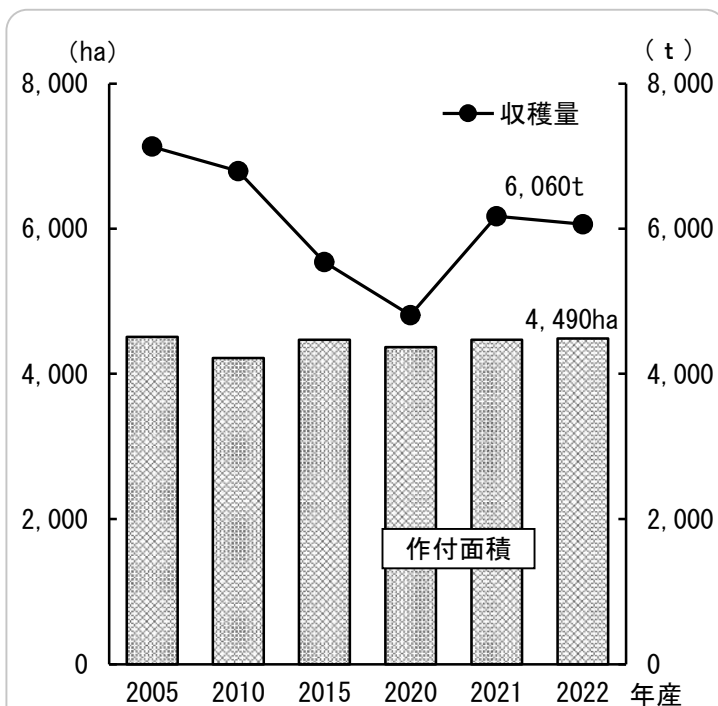
2022年産麦類



(出典：作物統計)
 小麦は西尾市、安城市、豊田市、岡崎市など主に西三河地域で、大麦は大口町で生産されている。

《大豆作付面積と収穫量の推移》

《大豆産出額の推移》

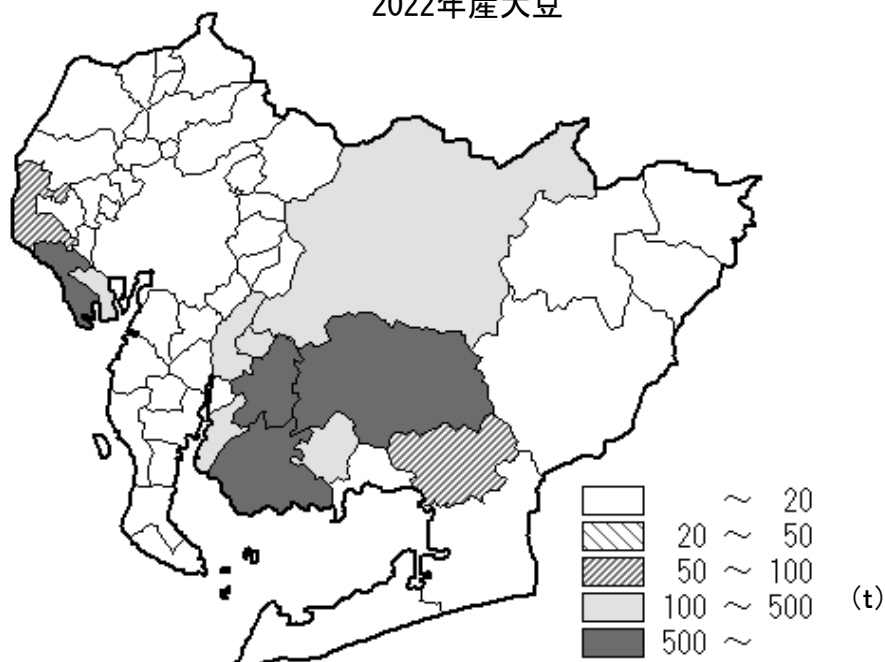


(出典：作物統計)
 近年の作付面積は4,500ha前後。
 作柄の変動が激しく、2018年産以降不作が続いた。
 2020年以降に栽培された品種はすべて「フクユタカA1号」。

(出典：生産農業所得統計)
 作柄の変動が激しいため、価格の変動も激しい。
 ただし、愛知県産の価格は全国平均と比較して高い傾向にある。

《大豆の市町村別収穫量》

2022年産大豆



(出典：作物統計)
 大豆は西尾市、安城市、岡崎市、豊田市などの西三河地域、弥富市などで主に生産されている。